

QA2 福島第一原発事故とチェルノブイリ原発事故とでは、影響の度合いは違うのですか

福島第一原発事故における大気への放射性物質の放出量は、チェルノブイリ原発事故の約1割程度である等の違いがあります。

福島第一原発事故とチェルノブイリ原発事故の国際原子力・放射線事象評価尺度（INES）※評価は同じレベル7ですが、大気への放射性物質の放出量を比べると、福島第一原発事故はチェルノブイリ原発事故の約1割程度と見込まれています（下表参照）。

その他、以下の違いがあります。

イ）チェルノブイリ原発事故では急性の大量被ばくによる死者が28人出ましたが、福島第一原発事故ではそのような死者は発生していません。

ロ）福島第一原発事故では原子炉建屋の水素爆発が発生しましたが、チェルノブイリ原発事故では原子炉が爆発し、多量の放射性物質が拡散しました。

ハ）

東京電力福島第一原発事故とチェルノブイリ原発事故による放射性物質放出量の差

放出核種	東京電力福島第一での想定放出量		（参考） チェルノブイリでの放出量
	評価1 原子力安全・保安院発表 （平成23年6月6日）	評価2 原子力安全委員会発表 （平成23年8月24日）	
ヨウ素131 …(a)	16万テラベクレル (1.6×10^{17} Bq)	13万テラベクレル (1.3×10^{17} Bq)	180万テラベクレル (1.8×10^{18} Bq)
セシウム137	1万5千テラベクレル (1.5×10^{15} Bq)	1万1千テラベクレル (1.1×10^{16} Bq)	8万5千テラベクレル (8.5×10^{16} Bq)
（ヨウ素換算値） …(b)	61万テラベクレル (6.1×10^{17} Bq)	44万テラベクレル (4.4×10^{17} Bq)	340万テラベクレル (3.4×10^{18} Bq)
(a) + (b)	77万テラベクレル (7.7×10^{17} Bq)	57万テラベクレル (5.7×10^{17} Bq)	520万テラベクレル (5.2×10^{18} Bq)

15% 11%
それぞれ約1割程度

※：国際原子力・放射線事象評価尺度（INES）とは、原子力発電所等の事故・トラブルに

ついて、それが安全上どの程度のものかを表す国際的な指標です。福島第一原発事故における国際原子力・放射線事象評価尺度（INES）評価の考え方については、原子力安全に関する国際原子力機関（IAEA）閣僚会議に対する日本国政府の報告書の添付IX－9をご参照ください。<http://www.kantei.go.jp/jp/topics/2011/pdf/app-chap09.pdf>

出典：復興庁「避難住民説明会等でよく出る放射線リスクに関する質問・回答集」より作成

出典の公開日：2012年12月25日

本資料への収録日：2013年1月16日